

## 〔国語〕

### 「あ」で始まる言葉を使う

必ず会話を交わす朝食時の食卓で、子ども自身に言葉をたくさん挙げさせてみよう。今日は「あ」から、次の日は「い」からといった具合に、1日1文字ずつやってみよう。「かしこまって机に向かってやる必要はありません。幼稚園や保育園の行き帰りに、おしゃべりしながら、親子で楽しくやってみてもいいんですよ」(鈴木さん)。

㊦ ㊧

### 間違った文章を正しく直す

朝食時の食卓で、親が「て」「に」「を」「は」が抜けた文章や、内容が間違った文章を言う。それを子どもに言い直させよう。例えば、「絵本、取って」は「絵本を取って」に、「明日は晴れでした」は「明日は晴れでしょう」に直させる。「1日1つでもいいです。なぞなぞのように楽しくできますよ」(鈴木さん)。

㊦ ㊧

何でもやってあげる親が増えて、  
基本的なことができない子どもが  
増えているという。

朝5分、夕方10分を有効活用して、  
小学校入学前に身に付けるべきことを習得させよう。

㊦ 朝のトレーニングに通している ㊧ 夕方のトレーニングに通っている



# ニング

## 〔算数〕

### ものの形をえんぴつでなぞる

親が夕飯の準備中で子どもが暇を持て余しているときに、紙とえんぴつを使って、身近な立体物をなぞらせてみよう。「例えば、紙を下に敷いて、円柱形の茶筒を立てて底の部分をなぞると円に、寝かせて側面をなぞると長方形になることを、自分の手と目で体感しながら理解できます」(鈴木さん)。

㊦ ㊧

### お菓子やみかんの数を数える

おやつ時間に身近なものを使って、数を数えさせてみよう。「小さな袋入りのビスケットなどを開ける際、「いくつ入っている?」と、自分で数えさせてみましょう」(鈴木さん)。慣れてきたら、例えば8個のものを5個と3個に分けて、「全部でいくつある?」と質問し、「5に3を加えたものが8」であることを認識できるようにする。

㊦ ㊧

幼児教室の「翼会エール」代表の鈴木紀子さんが近年強く感じているのは、生活面、学習面ともに基本的なことができていない子どもが非常に多いということだ。

「幼児教室に子どもを連れてこられるような家庭ですから、お母さんたちにはそれなりに教育熱心な方が多いんです。でも、それが裏目に出ているというか、子どもに対して何でも手助けしてしまったり、世話を焼きすぎてしまったりするんです」

その結果、子どもは自覚的に何かをするということがなくなり、一人で洋服を着替えたり、きちんと食事をすることができなくなるのだという。

このような状況に危機感を抱いている鈴木さんは、「もっと子どもを困らせましょう」と提案する。

そのために、朝の5分間や夕方の10分間といったすきま時間を有効活用したい。

例えばおやつ時間には、食べる前にお菓子の数を数えさせてみよう。また、簡単なお手伝いもさせてみよう。例えば、自分の洋服をしまわせる際には、「Tシャツは左の列の上から3